



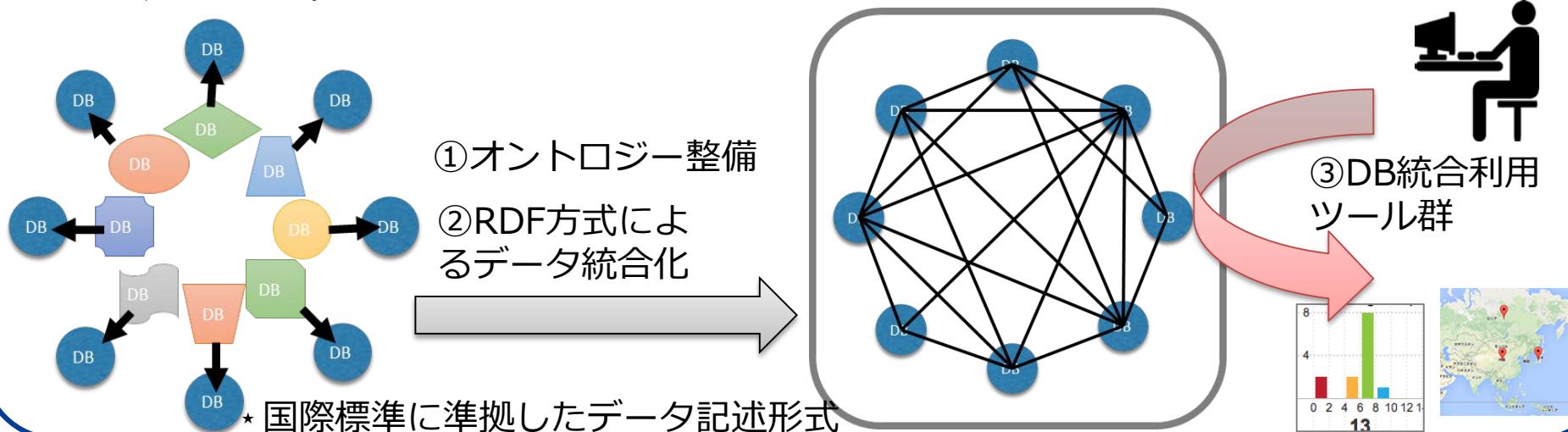
データ基盤整備 「ライフサイエンスデータ」

プロジェクトの目的・目標

- 背景・生命科学の研究成果の多くはデータベース(DB)として公開される。
- ・ 生命理解のためには多様なDBの多面的なデータからの新たな知識抽出が必須。
 - ・ しかしDB毎に形式や記述方法がバラバラ。関係付けや組合せ使用が非常に困難。
- 目的：DBを統一的な形式で記述し、世界中のDBを組合わせてデータを広く利用できるようにする。新たな知識抽出の場の構築が目標。

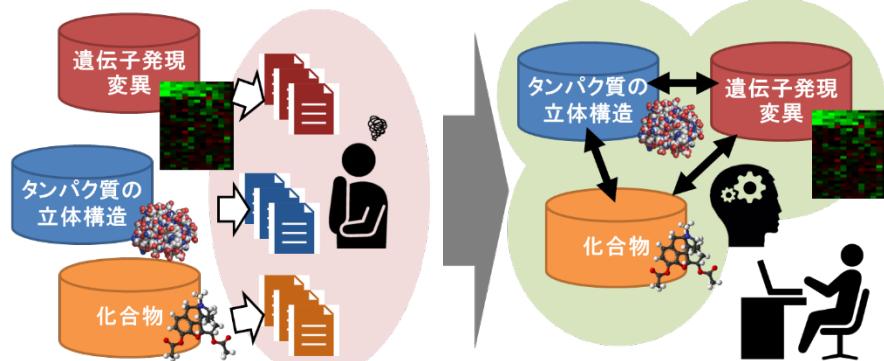
具体的な研究成果

- ①オントロジー整備：DB間のデータ関連付けのための用語の整理と共通化。
 - ②RDF方式(*)の応用/ガイドラインの策定/RDFポータル公開：多様なデータを一律に扱う表現方法の国際標準化を進め、格納する仕組みを構築。
 - ③データ利用のためのツールの開発公開：関連する情報を効率的に検索・表示するために、質問内容のDB検索言語への変換と様々な結果表示機能を開発。
- ⇒現時点は、多様なデータを一括して扱える仕組みの基礎ができた段階。

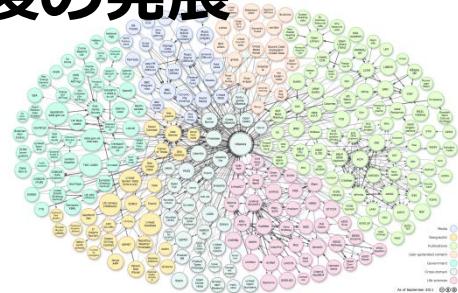


学問・社会的効果

- ・ 多様なDBを組み合わせて利用する際に必要な人手に依存する部分（データ抽出と関連付け）が不要に。DBの高度活用促進へ。
- ・ 複雑な質問についても、連結された大きなデータの網の中で人工知能などを応用した回答が期待。



今後の発展



〇〇について知りたい...



- ・ 対象DBの拡充
 - ・ 高度検索/表示機能
 - ・ 自然文による検索
- ⇒ **オープンサイエンス推進**

